

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所とことこ		
○保護者評価実施期間	R7年 12月7日		～ R7年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年 12月7日		～ R7年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日々の活動の振り返りを、療育後に実施しており、より深く理解を深めている。	・ベテランの先生、ST、心理の先生との意見交換もできるような場を作り、対応の仕方、考え方を深めるようにしている。	・振り返る場面で、他の先生の気づきも取り入れたり、良かった点を認識、改善するところも遠慮なく言えるような話愛ができるようにしていく
2	・職員間で日頃より意見交換し、子どもへの対応を共通理解して実施する努力をしている。	・できるだけ職員の意見を引き出したり、不安や対応に困ったときに話し合えるようにしている	・どのような視点を持った方がよいか、対応の仕方の工夫など、話し合う時間を可能な限り作って行っていく。
3	・地域の商店街、自然(海、川、芝の傾斜)、公園などがあり、五感に触れる機会を多く作れる	・歩育を取り入れて、いろいろな体験ができるように計画をしている。	・地域の学校との交流、または公園などで子供たちが多く交流できるようなイベントや、計画を立てていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・限られたスペースしかない。	・構造上仕方がないものではあるが、必要な物品を意見を出し合って、対応していく必要がある	・クールダウンの場所がなく、職員が工夫して取り組んでいる。屋外や、奥のスペースも利用してはいるが、必要な物品の購入も実施していく。
2	・家族間の交流が深められていない ・家族様への学習会ができていない	・帰りのお迎え時にお返しはしているが、さらに家族の意見の聴取、療育での様子を伝えていく必要がある	・子供をよく観察して、伸びている点、本人が困っている点を把握して、ご家族と一緒にどう取り組んでいくか、反省や会議で理解を深めていく ・家族との勉強会の実施
3			